



さらないと困ります、とさへ書いて寄越したのである。

「慙うして私宛に言つて来たから宜いやうなもの、これが直ぐにへでも送られて見給へ、それこそ大變ぢやないか」

支配人は忌々しさうに言ふ。

「何とも申譯が有りません、今後は注意致しますから……」

と近藤は頭をベコ／＼下げながら、心から悪かつたと悔ゆる。

「申譯が無いぢや濟まないよ。君一人ぢやなし、他にも若い者が居るんだから、此儘で済ます譯には行かない……君も折角来て貰つたんだが、今日限りで此館を出て行つて呉れたまへ」

「あの今日限りで……」

と近藤の顔には物悲しげな影が漂ふ。



「其が當然の事ぢや無かね……置き度ても置く事は出来ないのだから」

「……………」

彼は差俯向いて無言であつた。明日からバンに離れるのかと思ふと、不覺の涙がホロリ／＼とこぼれる。そして明日からの生活が不安でならなかつた……………」

320
709

濟本納省勢內

昭和四年四月五日印刷
昭和四年四月十日發行

定價金一圓五十錢

有所權作者

著作者 銀兵衛

大阪市東淀川區木川町二八四

發行者 宮本彰三

大阪市西區阿波座上通三ノ三九

印刷者 幸松一雄

大阪市東淀川區郵便局前

發行所 國民書院

振替大阪六九五七〇番

終

